



要点 1 詩の種類・表現技法

難易度 ★★☆☆

① 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 海の風景

堀口 大学

空の石盤に
鷗がABCを書く

第一連

海は灰色の牧場です

第二連

白波は緬羊の群れであらう

船が散歩する
煙草を吸いながら

第三連

船が散歩する
口笛を吹きながら

第四連

B 寂しき春

室生 犀星

したり止まぬ日のひかり
うつうつまはる水ぐるま
あをぞらに
越後の山も見ゆるぞ
さびしいぞ

一日もの言はず
野にいでてあゆめば
菜種のはなは



遠きかなたに波をつくりて

いまははや

しんにさびしいぞ

(1) A・Bの詩の種類としてあてはまるものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 文語定型詩
- イ 文語自由詩
- ウ 口語定型詩
- エ 口語自由詩
- オ 口語散文詩

A

B

(2) — 線部「空の石盤」は、隠喩によって「空」を「石盤」にたとえた表現です。この「空」と「石盤」のような関係になっている言葉の組み合わせをAの詩の中からあと二組探し、書き抜きなさい。

〔 〕と〔 〕

〔 〕と〔 〕

(3) Aの詩で、擬人法が使われている連、倒置法が使われている連はどれですか。それぞれあるだけ探し、連の名まえを答えなさい。

擬人法 〔 〕

倒置法 〔 〕

(4) Aの詩で、連どうしが対句になっているところがあります。どの連とどの連ですか。連の名まえを答えなさい。

〔 〕と〔 〕

(5) Bの詩に使われている表現技法として適切なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 倒置法
- イ 体言止め
- ウ 直喩
- エ 反復法
- オ 擬人法

・

学習した日
/ ()分

学習した日
/ ()分

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

虹の足
吉野 弘

1 雨があがって

2 雲間から

3 乾麵かんめんみたいに見つ直すぐな

4 がたくさん地上に刺さり

5 行く手に榛名山はるなさんが見えたころ

6 山路を登るバスの中で見たのだ、虹の足を。

7 眼下がんげにひろがる田圃たんぼの上に

8 虹がそつと足を下ろしたのを！

9 野面のづらにすらりと足を置いて

10 虹のアーチが軽やかに

11 すつくと空に立ったのを！

12 ^①その虹の足の底に

13 小さな村といくつかの家が

14 すつぱり抱だかれて染められていたのだ。

15 それなのに

16 家から飛び出して虹の足にさわろうとする人影は見えない。

17 ——— おーい、君の家が虹の中にあるぞオ

18 ^②乗客たちは頬ほほを火照ほてらせ

19 野面に立った虹の足に見とれた。

20 多分、あれはバスの中の僕らには見えて

21 村の人々には見えないのだ。

22 そんなこともあるのだろう

23 他人には見えて

24 自分には見えない幸福の中で

25 格別驚きもせず

26 幸福に生きていることが——。



(1) この詩の中のに入る言葉として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 雨足 イ 風
ウ 陽射し エ かけ

(2) ——— 線①「その虹の足」は、どのようにして現れたのですか。虹の足が現れた様子が具体的にえがき出されている部分を詩の中から五行でとらえ、初めと終わりの行の番号を答えなさい。

行目

行目

(3) ——— 線②「乗客たちは頬を火照らせ」とありますが、このときの乗客たちの心情として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大声を出したという恥ずかしさ。
イ 他人の幸福に対する反発と羨望。
ウ 人生の皮肉に対するいらだちと怒り。
エ 目の前の光景に対する感動と興奮。

(4) この詩は、「作者が見たこと」とそれについて「作者が考えたこと」の二つの部分に分けられます。後半の初めの行を番号で答えなさい。

行目

(5) この詩で、「虹」の中にいながらそれに気づかない村の人々をえがくことで、作者はどんなことを言おうとしたのだと考えられますか。「ふだんの生活」という言葉も用いて説明しなさい。